

浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成24年3月

第33号

親鸞聖人七百五十回御遠忌法要勤まる

宗祖親鸞聖人御遷化され750年。御本山では4月、5月、11月の3期にわたり法要が勤まり、本弘寺でも3期とも御本山に団参させて頂きました。

本弘寺では11月20日、21日の2日間にわたり法要が勤まり、20日には記念講演に青木新門先生。21日には聖路加国際病院理事長、名誉院長で御年100歳であります日野原重明先生の講演により聞法者一同パワーのシャワーを頂けたと思います。



日野原先生のお帰りをお見送りとお待ちしていましたが、両手を広げ大きな温もりで私たちを包み込んでくださいました。微笑みながらお車に乗り込まれ手を振ってお帰りになれるお姿に～～～100歳万歳！～～～

読者の広場

「五十年に一度の御勝縁に合わせていただいて」

高島美紀

親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に4月、5月、11月と3期にわたり本弘寺より御本山へ団参させて頂きました。私は4月、5月はお寺の留守をお守りさせていただき、11月26日の団参でお参りさせていただきました。大勢のお坊様による板東曲の荘厳なお声明を拝聴し、御本山へご奉仕させていただいていた副住職の「御絵伝絵解き」を賜り、優雅で美しい舞楽の舞も初めて拝見することができました。また、「小中学生による御遠忌法要」には、2人の息子たちが出仕させていただき御内陣で1人ずつ「如来大悲の恩徳は」と調声の発声をしている姿には感動し、一緒に出仕させていただいていた大勢の子供たちが将来の本願寺様を支えていくのかと思うととても心強い思いがいたし、また胸の詰まる思いでございました。

本弘寺におきましては11月20日、21日と2日間にわたり11名のお坊様によるご法要が厳修されました。映画「おくりびと」の原作者の青木新門様と100歳を迎えられました日野原先生のお話をお聞かせいただきとても感銘を受けました。手を握ってくださった日野原先生の手は大きくて、温かくてこちらの方が元気をいただいた気がいたします。親鸞聖人の御教えが子々孫々に伝えられますよう、私も報恩感謝の気持ちを忘れずにお念仏の日々を過ごさせていただきたいと思っております。



合掌

「親鸞聖人の七百五十回御遠忌を終えて」

滝井江子

平成23年4月に東本願寺の法要に参拝してから、本弘寺一行で越後七不思議めぐりで越後に参りました。昔からのお寺がカヤの実や、片葉の葦、七房の梅など、親鸞聖人の所縁あるものを大切に守っておられました。5月には雅楽を境内の舞台上で観覧しました。優雅で平安の昔に還ったようでした。

11月20日、本弘寺の七百五十回御遠忌法要の後に青木新門様の講演があり、21日には日野原重明先生の講演がありました。どちらも好評で企画された役員さんたちもホッとされたようでした。50年に一度のことですから御住職も大変なご苦勞もあったと思いますが、役員、婦人会一同も張り切ってがんばりました。天気にも恵まれて本当に素晴らしいご法要でした。日野原先生のサイン会では握手をしてくださいましたが、大きな暖かい手で御仏の手もこのように差し伸べてくださっているのかなと思えば、気づかずに生活をしている私に仏様も困っておられるのではと思いました。

26日には副住職のお子さんお2人が東本願寺の法要で御法主と並ばれてお勤めをされました。ハラハラしておりましたが大きな声でしっかりとお勤めされました。

思えば親鸞聖人の御遺徳があればこそ750年も綿々この行事が続けられているのだと思いました。

御遠忌法要に婦人会、男性役員の方々と共に参拝者へのご案内、ご接待にと大奮闘す。



準備万端。参拝者を待つ。



本堂から溢れんばかりの参詣者



境内テントも満員でした。



精一杯頑張ります。



肝っ玉母さん出番ですよ～

花まつりのご案内

4月8日はお釈迦様のご誕生遊ばされました仏教徒にとっては大変大切な日です。本弘寺では鳳凰殿にて毎年4月8日午後1時より誕生仏に甘茶をおかけしましてお祝いをいたしております。当日は女性プロの演奏者による尺八とお琴の演奏もあり、軽食と飲み物も用意しております。今年も桜の見頃を迎えると思いますのでどうぞゆっくりとお楽しみくださいませ。合掌